

須加院川ありがとう

連絡先事務局

〒679-2132 姫路市香寺町須加院470-1

メー ル

blue_sky@gaia.eonet.ne.jp

ホームページ

<http://www.eonet.ne.jp/~sukain/index.html>
<http://himeji.genki365.net/gnkh09/mypage/index.php?gid=G0000074>

電話とファクス

079-265-3631

須加院川の会

第 072号

発行日 H22.10.28

発行 上月時男

編集 上月勝好

印刷 小野高速

‘10/11～‘11/01 月の予定

私たちの活動には、だれでも、いつでも、気軽に参加できます。ボランティア保険も掛けお待ちしています。

	月 日	時 間	集合場所	中止・決行は集合時刻に集合場所。問合せは上記 ↑ 連絡先	
189	11 月 7 日(日)	AM8:00～ ～11:30	・香呂南小前	・河川敷花壇の手入れと花壇まわりの草刈およびゴミ拾い ・毘沙門堰～なめら堰間の草刈と周辺のゴミ拾い	
190	11 月 12 日(金) ↓ 13 日(土)	AM8:00～ ～PM17:00	・一泊親睦 研修旅行	・高野山～竜神スカイライン～熊野古道～川湯温泉みどりや(泊) ・熊野川支流の北山川清掃ボランティアさんらと交流会 ・瀬峡(昼食)～熊野本宮に参拝～新宮方面より帰途へ	
***	11 月 22 日(月)	PM13:30～ ～15:00	・香呂南小前	・香呂南小4年生と「ホタル幼虫の放流」 ・放流は運動場西北よこの川原	
191	11 月 23 日(火)	PM13:30～	・香呂南小前	・香呂南校区子ども会と「ホタル幼虫の放流」 ・放流は保喜堰(増田屋橋の上)と前香呂南幼稚園横の川原	
		放流後→ ～PM16:00	・姫が丘 スカイホール	・子ども会と親睦交流会 ・ホタル幼虫の飼育と放流をふり返って、ほか	
192	12 月 5 日(日)	AM8:30～ ～11:30	・香呂南小前	・堤防の桜などへ施肥(田川神社下～元南幼稚園横)ほか ・河川敷花壇の手入れと花壇まわりの草刈およびゴミ拾い	
193	丸9年の千秋楽 1 月 9 日(日)	AM9:00～ ～11:30	・香呂南小前	・なめら堰～円堂谷間の刈取とゴミ拾い	・11時合流、トン汁と ぜんざいで初回打上
				・河川敷花壇の手入れとゴミ拾い	

川の生き物しらべ

9月25日(土)中播磨県民局の環境課から案内を頂き川の会より内海ホタル委員長ほか都合三名が参加した。場所は夢前公民館と隣の夢前川、生き物の採集と机上の学習。私達はホタルの幼虫飼育に取組中なので当日採集した約5ミリ強に育ったホタルの幼虫の動く姿がスクリーンに大きく映し出されとても感動した。

さて、かなり以前に須加院川は町内の矢田部川や恒屋川等、他河川と共に洪水防止を優先した河川工事が施された。時代は川魚の棲む条件等に配慮する環境保全を重視するより基盤整備優先だったので、今から思えば残念ながらタナゴなど多くの川魚が川から姿を消した。

私達は次の課題として、数十年前に須加院川にいたタナゴを復活させようと挑戦している。現在、市川で捕ったカネヒラとタイリクバラタナゴを成育中も、これを放流してもダメなのです。タナゴは種の保存に二枚貝に産卵するとかで、秋に水を落とした市川水系の中で縁

有る池々の好意でカラス貝を貰い、秘かに川に投入し丸二年が経つ。貝は死滅するか流されるかでタナゴの放流段階へ進めない。しかし一人でも多くの人に愛着を深めて貰える須加院川に戻したいと魚の知識も更に高めようと励みます。興味ある方の参加を期待しています。



2010/09/25

生物の多様性と保全について

生物の多様性について私達は『生物、欠けては困るがいろいろ在っていいんじゃない』という程度の理解でしたが、COP10が名古屋で開かれTVや新聞などが連日報道、どえれえ大ゴトと気付かされた。報道には『わずか一種類の生物が絶滅してもやがて人類の消滅を招く』と力づくでも阻止し保存しようと企てる激しい運動の例や運動の本音と建前なども伝えた。簡単な様に思っていたが見えて来たのは遺伝子・DNAなどの医学から産業経済等々の多方面に渡ること。また素人の近寄り難い未知の分野が多く、しかも各国の利害や思惑が複雑に絡み合っていること。同時に生物多様性の保全と生態系の保全はほぼ同義語ということでした。

ずっと前に各国が生物の多様性に関する条約で採用した定義は、『すべての生物(陸上生態系、海洋その他、の水界生態系、これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかなを問わない。)の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む』とあり辞書や専門書を横にしても難解です。

何とか少しでも理解したいと、最も近くて関りの深い須加院川、降る雨の流れ入る山や田畑に市川、そして瀬戸内海へと続く水の流れをイメージしながら生物の多様性について考えて見ました。ちょうど川の会はホタルの幼虫を飼育し放流する活動に取組中ですし、時を得た格好のテーマではと考えました。

まず、私達が取組んで来た川のゴミ拾いとそのためめの河川域の草刈は、『消滅した』と思っていたホタルや多種の川魚などの生き物を須加院川に呼び戻すという思わぬ好結果。つまり生物の多様性の回復に少々貢献しましたが、活動当初は生物の多様性や生態系の保全を目指したので無く、荒れ放題になった川を子供の頃に遊び戯れた美しい景色、つまり5～60年前の姿に戻そうと有志らが一途に励み続けたことへの褒美だったのかも。

取返したホタル、棲息条件には透明で飲めるほどの水が最適と思う人も多かろうが実はそうでは無く、少し汚れた位がエエカゲン。むしろ好物の餌と言われるカワニナの棲息数の多少の影響力が大と学者は説く。仮に大型ダンプに何台ものカワニナを川に入れてもカワニナが棲めない所ではホタルも飛ばない。更に大河より小さい里川とか小川や溝がベターと言う。ともあれ、ホタルは地域の水質レベルを示すバロメーター、理屈抜に人の心を和ませ毎年飛ばせ続けたいのが人情では。

いま中山間では少子化高齢化過疎化が顕著で住民の意思の有無に関係なく環境破壊も進行中。せつかく回復したホタル乱舞の宵も今の住民行動でいつまた消えるか解らない。このたびのCOP10開催を機に、自分

に出来る何かをとお考えの方も多いだろう。ホタル幼虫飼育推進に川の会への参加を考えて欲しい。絶え間無い気配りと世話が欠かせないホタルの幼虫飼育ですが、生物の多様性の保全には意義深い活動と注力しています。現在、子供会や小学校とコラボ中で、特に子供会では飼育する家族全員の暖かい協力が欠かせませんし、今後は子供会だけでなく更にその輪を広げたく、一人でも多くの方々に参加して欲しいと願っています。

読売新聞・2010/10/17より

この十数年、毎年秋季になると、北海道は標津町の忠類川に通っている。秋に、忠類川にのぼってくるサーモンを釣るためだ。この忠類川、全国でも数が少ないサーモンを釣ることができる川なのだ。この川の素晴らしいのは、原始の風景が残っていることである。開拓時代はかくもあったろうという景観の中でサーモンをねらうことができるのだ。近年、北海道といえども多くの川にいくつもの工事の手が加えられていて、釧路川などはかつての面影はない。蛇行した川筋は真っ直ぐにさせられ、支流にもたくさん工事の

手が入っている。しかし、知床半島の根元を流れるこの忠類川はまだ釧路川ほど悲惨な目にあっていない。毎年、行く度に、川の流れが変化し、川が広い川原を縦横無尽にあればまわっている様子がうかがえるのである。ヒゲマの生息密度が世界一と言われる知床半島が近いせいか、この川にも頻繁にヒゲマが出現するというのもいい。ある年、ヒゲマが出没しているの

川で、ヒゲマに襲われて人が死んだというのである。夜、サーモンの密漁をしているところへヒゲマがやってきて、襲われたものらしい。こういう時は、びくびくしながら竿を出す。このような怖さもまた、北海道ならではの釣りのスパイスなのである。人間という存在が、大自然の中で裸にひんむかれて、傲慢なる存在から多少はひかえめな存在となることができるのも、忠類川に原始の自然がまだ残っているからなのである。今年の秋もまた、ぼくは、この川で竿を出していることだろう。

文・夢枕獯



夢枕獯

原始の自然へ恐れつつ竿